



園だより

第9号

令和2年1月8日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

読解力を育む

新年 明けましておめでとうございます。

オリンピック・パラリンピックが東京で開催される2020年が始まりました。私は、前回の東京オリンピックを機に大きく変わっていく日本を見てきました。今回は、私たちの生活にどのような変化をもたらすのでしょうか。変化が著しい時代をたくましく、そしてしなやかに生きていく力を、子どもたちが身につけていけるように、今年も教職員一同、力を合わせて教育にあたっています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年末、OECD(経済協力開発機構)の国際学習到達度調査(PISA)2018で、日本の15歳の「読解力」が顕著に低下したという結果が出ました。正答率低下の要因には、文の終わりまで読まないと分かりにくい日本語と他言語との差や、日本の子どもたちがコンピュータ方式の調査に不慣れであったこともあるようです。しかし、様々な情報の中から質や信憑性を読み解き、自分の知識を広げていく「読解力」は、これからの時代をたくましく、しなやかに生きていくためにもとても大切です。そして「読解力」は、幼児期から育まれます。

こう記述するととても心配になる点があります。それは「それならば、たくさん読ませよう」と、子ども自身に絵本を読ませようとする考えがあることです。まだ文字を拾い読みする状態の子どもたちにどのくらい絵本の世界を理解し、楽しめる力があるのでしょうか。『ぐりとぐらのえんそく』(福音館書店)を子どもたちと一緒に、私も読み聞かせてもらった時のことです。絵本に描かれていた(カラマツ?)芽吹き的美しさに驚きました。読み手の言葉の響きと絵から、セーターのほつれにも気づかず、春の心地良さを感じている熊の気持ちがとてもよく理解できました。これまで何十回もこの絵本を読み聞かせしてきたのに、ここまで理解できたのは初めてでした。大人の私でも読んでもらったからこそ理解できた楽しい絵本の世界でした。子どもたちに、優れた絵本を大人が読み聞かせをして「読解力」を高めていきたいものです。

また、友達と情報を共有し、考えを交わしながら課題を解決していく体験も、情報を読み取り新たな知識や経験としていく「読解力」を育むために重要です。12月、年長児は育てたダイコンを使って豚汁を作り、年中・少児に振る舞いました。その折、年長児は、購入する品物と個数が伝えられグループに分かれて買い物に出かけました。ところが「コンニャク、一人1個」のグループには、商品棚の前で問題が起きました。コンニャクには、特大の袋と普通サイズの袋の2種類があったのです。「どちらにする?」「年中や年少さんたち、たくさんいるから大きい方がいいんじゃない?」「多すぎない?」と、「議論」を重ね、最終的に普通サイズの袋を購入することにしました。このような体験を幼児期から積んでいくことも多くの情報から課題を解決する「読解力」を育むために重要です。

新聞や本を読むことが減り、情報はスマホからという方が多い時代です。私も例外ではなく、電車に乗るとすぐにスマホを手にしてしまいます。そんな時代だからこそ子どもたちの周りには大人が、本をひらく姿を示すことが、これからの子どもたちの「読解力」を高めていくために必要かもしれません。

今年も本園の教育にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



金曜日は、絵本貸し出しの日。自分で選んだ絵本を借りて帰ります。是非、大人が読んであげてください。



先生に読んでもらった大好きな絵本を友達に「読み聞かせ」する年少児。文字は読めないのに、内容をしっかり掴んで「読み聞かせ」しています。すごい「読解力」です。



楽しみに育ててきたダイコンの収穫に大喜びの年長児。実体験は知識を広げるだけでなく、豊かな感情体験をもたらし、文章を奥深く読み取る助けとなります。



育ててきたカブトムシが死に、今飼育ケースの中には幼虫が育っています。図鑑で調べたり、情報を交わしたり、子どもたちの興味や関心が高まります。